

広島湾の水質一斉調査について

～9月第1週に、各機関が連携して広島湾の水質一斉調査を行います！～



広島湾の北部海域では、夏から秋にかけて有害プランクトン（ヘテロカプサなど）による赤潮が発生し、また、海底付近では「貧酸素水塊（ひんさんすずいかい）（※1）」が発生しており、かき養殖などへの漁業被害が発生しています。今後、赤潮や貧酸素水塊の発生を減らしていくための対策を行う必要があります。

赤潮や貧酸素水塊がどのような条件で発生するのかなど、そのメカニズムについては、これまで十分に解明されていないのが現状です。

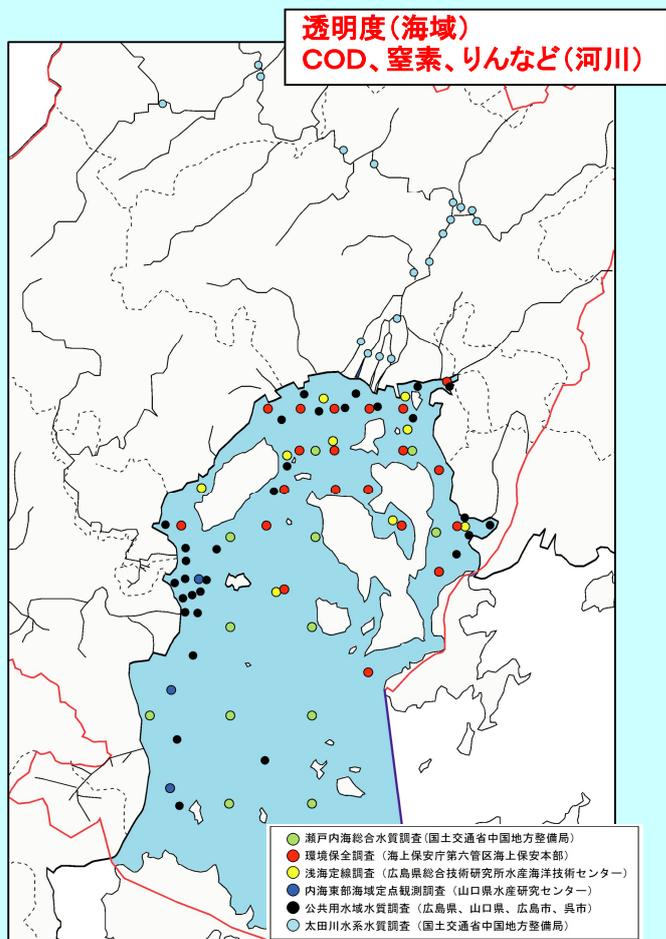
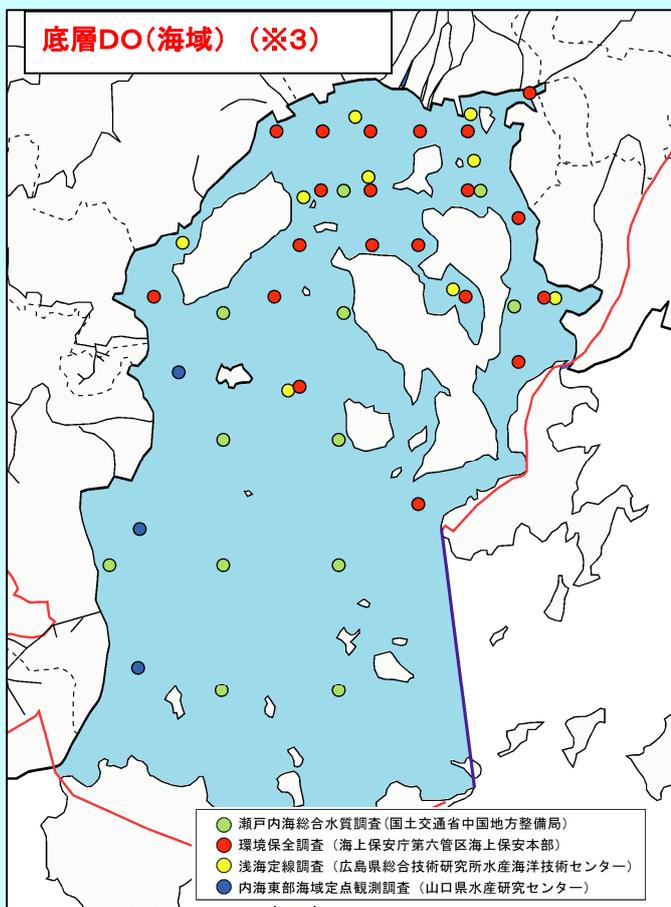
このため、広島湾再生推進会議（※2）では、これまで各機関が個別に実施していた水質調査との連携を図り、一年のうち最も水質が悪化する夏季に調査時期を統一し、水質の一斉調査を行うこととしました。

広島湾再生推進会議では、水質一斉調査の結果を活用することにより、広島湾の赤潮や貧酸素水塊の発生メカニズムの解明や対策の検討を進めていきたいと考えています。



1. 水質一斉調査実施時期 平成21年9月1日(火)～9月4日(金) (一部は9/8に実施)

2. 水質一斉調査を行う地点及び参加機関



(※1) 貧酸素水塊

水中の溶存酸素濃度が低下した状態の水の塊のことをいいます。主に夏季に発生し、海底付近に生息する生物が死滅するなどの悪影響を及ぼしています。

(※2) 広島湾再生推進会議

広島湾の環境修復・保全を推進するため、関係省庁及び関係地方公共団体等が協力して、陸域(流域)と海域(沿岸部を含む)が連携した総合的な広島湾の行動計画を平成19年3月に策定し、これを推進しています。(参加機関)国土交通省中国地方整備局、海上保安庁第六管区海上保安本部、農林水産省中国四国農政局、林野庁近畿中国森林管理局、経済産業省中国経済産業局、環境省中国四国地方環境事務所、広島県、山口県、広島市、呉市

(※3) DO(溶存酸素量)

海水中に溶け込んでいる酸素量で、水質汚濁状況を測る指標の一つ。海水中のDOが減少すると生物が呼吸できなくなったり、水中の好気性微生物の活動が鈍り水質浄化能力が衰えるなど、様々な問題を引き起こすといわれています。

3. 調査項目

○広島湾再生プロジェクトでは、「底層DO」と「透明度」の2つを定量的目標として掲げており、目標達成状況を評価するために「DO」と「透明度」を共通調査項目に設定。

○広島湾に流入する河川では、汚濁負荷の指標であるCOD、窒素、りんなどの測定を実施。

○貧酸素水塊は主に広島湾北部海域の海底付近を中心に発生していることから、底層DOは、海底面上 0.5m～2m の深さで測定を実施。(同時に、水温、塩分についても測定を実施)

4. 水質一斉調査結果の活用方法

○広島湾再生プロジェクトの定量的目標(底層DO、透明度)の達成状況の把握

○広島湾の水質汚濁メカニズムの解明や効果的な水環境再生対策手法の検討

○国、自治体、研究機関、NPOなどによるモニタリングデータの共有及び有効活用 など

5. 問い合わせ先、その他

○「水質一斉調査」に関すること

海上保安庁第六管区海上保安本部 海洋情報部海洋調査課 TEL 082-251-5111(内線 2535)

○「広島湾再生プロジェクト」に関すること

国土交通省中国地方整備局企画部広域計画課 TEL 082-511-6120

○現地取材をご希望の方は、8月7日(金)までに海洋調査課までご連絡下さい。

6. 広島湾再生プロジェクトについて

関係省庁や自治体などが連携して海の再生を推進する「全国海の再生プロジェクト」の一環として、広島湾において実施する取り組みのことをいいます。

広島湾再生推進会議を設置し、平成 19 年 3 月に「広島湾再生行動計画」を策定しました。

同プロジェクトでは、当面今後 10 年間を対象期間として、施策の進捗状況や成果などを踏まえて中間評価を行うとともに、必要に応じて内容や期間の見直しを行う予定です。

広島湾再生推進会議では、今後も取り組みを継続し、毎年行動計画のフォローアップを行います。



広島湾再生プロジェクトホームページでは、取り組みの紹介のほか、広島湾で学んだり楽しむための情報を掲載しています。
<http://www.cgr.mlit.go.jp/chiki/hiroshimawan/index.html>